

た。而して本冬季攻勢に對する各方面は我が軍の猛反撃により、再建軍備の戦力を過信せし重慶側に與へた物心両面の衝撃は、蓋し尠少なからざるものありと信するのである。四月七月及び九月の前三回の攻撃による敵の損害は、遺棄死體九萬四千三百五十八、俘虜六千七百四、鹵獲品山砲七、臼砲六十一、平射砲一、速射砲一、迫撃砲卅七、洋砲五百五十三、重機關銃百廿、輕機關銃三百廿二、小銃一萬二千四百四十八、其他多數に上り我が方戦死は二千三百六十七名であつて、又冬季攻勢撃摧による敵の損害は遺棄死體は六萬三千、俘虜二千五百九、鹵獲品迫撃砲卅三、洋砲十八、重機關銃八十三、輕機關銃四百五十四、小銃一萬四百八十九、艦船十六其他多數を算へ我が方の戦死は二千六百六十五名であつた。

在支陸軍航空部隊活動概況 在支陸軍航空部隊は北、中、南支の全線に互るわが地上部隊と緊密に協力し作戰遂行に努め、占領地内に蠢動を續くる殘敵及び遊撃部隊を捕捉爆撃して治安肅正に参加すると共に、毎次の進攻作戰に方りては敵軍主力の動向を監視しつゝ、機を見てこれを撃碎一方において全支をその鵬翼下に收め、長驅再建にあへぐ敵空軍基地及び、重慶蘭州等の奥地樞要軍事都市に連續爆撃を敢行し、重慶陣營の潰滅に邁進してゐるのである。斯くて空陸よりわが猛撃を受け冬期攻勢に失敗し、續いて廣西の奥地賓陽附近及び朔北の蒙古五原方面における全面的敗戦により、各方面とも大打撃を蒙りたる支那軍は、三月上旬重慶に全線軍事首脳部會議を開き、

今後の對策を協議するとともに、第三期整訓次期反攻準備に着手した模様で、徹底抗戦を呼號する蔣介石が軍の再建部隊の編成、戦力の強化に對する熱意と努力とは注目し値するものがあるのであるが、軍は各方面に大規模の作戰を敢行して、隨時隨所に敵の戦力を粉碎し、抗日重慶陣營の潰滅の一途に邁進してゐる。

更に同席上武藤軍務局長は本年四月中旬以降、全支各地に於ける我軍の作戰狀況に關し次の如く説明した。

軍は四月中旬以降全支各方面に互り、蠢動する當面の敵に對し積極的攻勢作戰を遂行中であつて、本日迄主要なるものは次の如くである。

晋南作戰 山西省南部の豊富なる民間物資に依存して、山間に逃避蠢動を續けありし約十五ヶ師の敵中央軍は、四月十七日から行動を開始して、我が北支軍空陸の精銳部隊の潞安及び、同蒲沿線並に博愛附近よりする巨大なる包圍網に蔽はれ、旬日にして早くも澤州附近において慘澹たる敗北を喫し、別に黃河北岸平陸附近の退路を遮斷せられて、北支唯一の蔣介石直系兵團は一大痛撃を受けたのである。その戦果は目下調査中なるも遺棄死體のみにも約二萬の多きに上り、我が方の死傷は九百九十九名である。

江南作戰 更に湖南、江西方面南昌、岳州間山岳地帯に蠢動を續くる敵に對し、之が一掃を目

的として最近活潑なる大掃蕩戦が續けられ、又四月下旬より安徽省南部に展開せられた包圍殲滅戦は、作戦開始以來旬日にして揚子江南岸に進出を企圖した敵を囊中に收め青陽、南陵方面における戦果は遺棄死體四千八百八十、俘虜百六十七、鹵獲品迫撃砲六、機關銃廿六、小銃四百八十四、其他多數に上り我方の戦死は百十六名であつた。

五原作戦Ⅱ舊臘以來、包頭奪還を企圖して蠢動中の傅作義軍に對し、我が北支軍の精銳は一月下旬より行動を開始し、先づオールドス平原に壯烈なる掃蕩戦を展開、軍が作戦の目的を完遂して同方面から兵を撤するや、敵は再び五原付近に侵入して來たので、三月下旬再度之に鐵槌を加へたのである。交戦兵力約五萬、遺棄死體千三百、我が方の死傷は五十二名であつた。

賓陽付近における殲滅戦Ⅱ南寧奪回を企圖して各方面より集結した中央軍を主體とする敵卅數ヶ師に對し、南支軍の精銳は一月末より賓陽付近に大包圍殲滅戦を敢行、二月上旬之に徹底的打撃を加へ、抗戦陣營に一大衝擊を與へたのである。本作戦における遺棄死體は四萬六千八百、俘虜二千五百、鹵獲品野山砲廿五、速射砲及機關砲十六、迫撃砲六十八、重機關銃百十、輕機關銃五百四十四、小銃九千六百六十、戰車、裝甲車及自動車類八十八其他多數に上り、我が方戦死二百五名であつた。其後當面の敗敵は一時後退して戦力の恢復に努めてゐるが、最近更に廣東及び中支方面より數ヶ師を轉用して、執拗に南寧奪回を再行しようと企圖して蠢動を始めたので、

我が方では戦時隨所に之に痛撃を與へて居る。

### 三、六月の戦況

#### A 晋南作戦その後の戦果（六月三日附東朝特電）

過般の晋南作戦により部下十八萬の中央軍を叩きのめされ洛陽に逃げ歸つた衛立煌は、重慶に對する信用恢復のため敗殘部隊に命じて、五月二十日以來我に對して反撃を企てつゝあつたが、我軍は各方面においてこの敵を捕捉殲滅し、二日までに大體その目的を達成し、敵は遺棄死體だけでも約一萬に達し、山中深く追ひ込まれるに至つた。即ち大野、笠原、渡邊、岩佐、竹村部隊は天上關附近一帶の第九軍及び第七十一軍の敗殘兵五千を先月二十一日より今日一日に互り撃滅し、又西田部隊は二十一日以來高平附近の第二十七軍殘黨を撃滅したが、この方面における敵の遺棄死體三千五百、捕虜五十、橋本部隊は二十三日以來澤州附近の第七十一軍の二千名を捕捉殲滅し、敵の遺棄死體七百五十に及んだ。

江口部隊も二十八日以來陽城附近で第九軍の敗敵を猛攻し、敵は三百の死體を遺棄して潰走した。又聞喜附近では敵の第三軍は重松部隊のため三方面より包圍せられ、遺棄死體一千五百を出

して殲滅され、死體の中から支那兵の服裝をした某國人一名發見された。又荒木部隊は二十日以降絳縣附近の第十五軍を撃滅し、敵の遺棄死體一千五百、捕虜五十、その他夏縣、茅津、周村鎮附近の殘敵は何れも數萬の遺棄死體を出して山中に逃げた。かくして晋南作戰及び鄉寧の敵掃蕩を通じて、敵の損害は遺棄死體のみでも三萬以上に達してゐる。

#### B 良口墟（南支）の捕捉戰

四月下旬以來中支方面におけるわが軍の活潑な作戰の展開に鑑み、第四戰區余漢謀軍は廣東北方地區良口墟附近に蠢動、その一部を出撃に當らしめると共に、本年初めの翁英作戰による深刻な痛手を糊塗彌縫して戰備に汲々たる有様であつたが、これに對しわが軍は誘致殲滅作戰を以て、五月上旬以來數個の小部隊によつて、敵據點良口墟附近に入り込み偵察を試みたところ、敵は六十二、六十三、六十五軍等余漢謀軍の殆んど全部を漸次集結、南下を開始し去る廿四、廿五日に至るや、良口墟附近のわが偵察部隊の兵力過少を侮り、狹隘なる山地を利用して奇襲攻撃を加へて來た。これに對し從化北方に集結し機熟するをうかゞつてゐたわが有力部隊は、一齊に猛攻の火蓋を切り、所在の敵を捕捉攻撃、遂に敵主力約六ヶ師はわが有力部隊の好餌となつて、壊滅的打撃を受けるに至つた。

#### C 漢水作戰

五月初旬から開始された漢水東方地區の所謂襄東作戰に於いて、過去一ヶ月間に徹底的掃蕩効果を擧げたわが精銳部隊は、これに息つく暇もなく、更に漢水以西の襄西地域に急追猛攻の戦果を擴大するに至つた。この方面に於ける敵は、李宗仁麾下の第五戰區に屬し、襄東敗退後は漢水西岸の地域を南北に互つて防衛し、反撃の機會をねらつてゐたのである。わが軍は新作戦を起すや南北兩兵團相呼應して進撃し、鍾祥南方潜江以西の漢水中流地域から一齊に敵前渡河を敢行して、無血渡河に成功し、五日朝來早くも舊口鎮北方より潜江附近に至る南北五十餘キロの半月形大進撃陣を展開し、潰亂せる敗敵の側面に猛撃を加へ、襄西に立籠る第五戰區の殘存兵力に對するわが進撃殲滅戰の態勢を完成したのである。

第五戰區は重慶蔣政權の前衛を爲す地位にあり、それ故蔣介石としても、防衛に最も意を用ひ李宗仁麾下の廣西軍の精銳、及び中央直系軍をもつて、これに充てたのである。

#### D 宜昌作戰

昭和十五年六月十五日午後四時、わが田中（靜）部隊は細雨そぼ降る中を堂々宜昌入城式を行

ひ、かくて敵首都重慶迄は愈々水路剩すところ三五〇哩、飛行距離にして四百キロ我が精銳戰團機なら僅々一時間餘の行程内となつた。南京の我が派遣軍報道部では十四日、去る五日の漢水渡河以來の同方面の作戰並びに、河北省南部に於ける共產軍討伐戰、南支欽寧公路西方の作戰に關し次の如く發表した。

中支に去る五日わが兵團の漢水渡河完了以來、僅々一週日を出でずして敵が絶對不落と豪語した宜昌は早くも守りを失ひ、五月一日以降一ヶ月餘の間襄東、襄西の山野に展開された今次大作戰の目的は歴史的戰果を収めて完全に達成された。

北支に北支の痛と見られた漢陽、漢縣、范縣、觀城西方清豐、朝城、南樂、内黃等の赤色據點に據る共產第八路軍三萬に對して、俄然本週に入つて壯烈極まる一大包圍殲滅作戰が行はれ、偉大なる戰果を収めて十二日早くも一段落を見た。

南支に先週廣東省從化北方の作戰に赫々たる戰果を収めた皇軍は、本週に入つて兵力を廣西省欽寧公路西方に蠢動する敵に發動し、上思縣城、扶南縣城、綏濠縣等を攻略、四分五裂となつて潰走する敵を各所に殲滅した。南支軍では更にこの際佛印方面よりする授蔣ルートに根絶すべく、鞏固なる決意を固めつゝある。

この中、宜昌作戰は敵第五戰區の重要據點を陥れ、敵首都を威嚇する非常に重要な作戰であ

るが、本多支那派遣軍總參謀副長は十三日、右作戰の經過と意義に關し次の如く語つた。

今次作戰目的は第五戰區における兵力破碎と、戰略的據點覆滅であるが、今や所期の目的を達したといふべきである。先づ第一期作戰は五月初旬敵の左側背を衝く襄陽作戰を開始し、漢水東方地區で湯恩伯軍を撃破北方に潰走せしめ、續いて第二期作戰として五月中旬から漢水の重要據點襄陽に向つて迂迴南下し、敵の意表に出て防禦の隙を與へず支離滅裂、指揮系統も混亂に陥つた敵を叩きつけ、而も蔣介石の命令の裏をかき襄陽附近で後退すると見せて反轉、一部は漢水を渡河し我方に迂回した張自忠軍を完全に潰滅させる等、敵の出鼻に大打撃を與へ、次いで第三期作戰としてたゞちに北方部隊は漢水西岸を南下、敵の左側背を衝き南方部隊は堂々漢水の無血渡河に成功、茲に漢水西方の敵を包圍しつゝひた押しに戰略的據點宜昌に突入したもので、徹頭徹尾敵の意表に出て、敵の損害は意外に多く極めて莫大な損害を與へ、特に從來と異なるのは敵の死傷數に比して捕虜の數が多く、抗戰支那軍の戰意喪失ぶりの甚しいこと、國民政府遷都の影響が大きいことが認められる。今回の作戰區域は南北百七十キロ、東西四百キロに亘り、最外翼の部隊は一ヶ月間に八百キロ以上も歩いて居り、獨佛國境から佛國を横斷しビスケ―灣に至る距離にもひとしい、これを以てしても廣大な作戰正面で、皇軍將兵が如何に奮闘しつゝあるか窺はれる。又同日中支軍某幕僚は前線基地に於て今次作戰の戰果に關し次の如く語つてゐる（六月十四日

附讀實朝刊)

軍が五月初旬敵第五戰區に作戰を開始して以來、敵に與へた損害は遺棄死體のみにも五萬を超え、その中には集團軍長張自忠の外師長三を含み、その他鹵獲品並びに現地において處分せる敵の戦闘資材は莫大な數量に達し、主要軍事據點を盡く覆滅し、豫南鄂西一帶に蟠踞せる敵に對し一大痛撃を與へた。襄東、襄西地區を通じて交戦せる敵兵力は五十ヶ師四十七萬にして、敵に與へたる損害概要は遺棄死體五萬、捕虜六千、大砲類六十、機關銃數四百五十、各種砲彈二萬六千、機關銃彈卅九萬、小銃類八千、小銃彈九百十五萬六千に達し、襄陽、襄陽、南漳、武安堰地區、宜城、荊門、當陽、仙居、觀音寺地區、荊州、沙市地區、宜昌地區の各軍事據點及び大別、大洪兩山脈、漢水河岸、當陽周邊、宜昌周邊の敵抵抗線を完膚なく覆滅した事は、武漢攻略戰以後絶えて無かつた所で、わが雄渾至妙なる作戰の絶對勝利を物語るものである。かくて凋落途上にある敵は今次のわが大鐵槌により、更に一大轉落を來たしたが、彼等にして抗日觀念の存する限り、軍は飽くまでもこれを膺懲すべく斷乎たる決意を有するものである。

#### 四、海軍の綜合戰果

大本營海軍部では五月三十一日、本年初頭以來の海軍の作戰經過並びに戰果に關し次の如く公

表した。

聖戰第四年初頭以來の海軍作戰の經過並に成果の概要

帝國海軍在支作戰部隊は、昨年引續き全支に互り幾多の作戰を敢行、その間陸軍部隊と緊密なる連絡を保ち將兵の士氣愈々振ひ、聖戰目的達成の爲勇戰奮闘大に其の戰果を收めたり。

海上封鎖部隊は事變以來連綿不斷寒暑風濤と闘ひつゝ、廣大なる支那海の主要海域を監視して支那船舶の交通遮斷に従事し、敵戎克に依る貿易その他の船舶に依る密輸を封じ、且つ封鎖港灣の閉塞を強化して敵の物資補給を斷絶すると共に、我占領地帶島嶼附近に蠢動する殘敵、匪賊を掃蕩せり。

北支部隊は二月上旬以來二回に互り其の船艇、陸戰隊、航空隊を擧げて、陸軍部隊の魯東作戰（山東半島の全面的掃蕩戰）に協力奮戰し豫てより良民を苦しめ治安を攪亂しつつありし殘敵土匪を一掃して、徹底的肅正の實を擧げたり。

揚子江部隊は江口より岳州に至る蜿蜒七百餘裡に互る本派を始めとし、大小幾多の支流湖上を制し、或は江岸に屢々來襲する殘敵を撃攘すると共に、隨所に陸戰隊を揚陸して敵匪の根據を衝き、或は航行船舶を狙ふ敵移動砲兵の據點を撃破し其他滅水期に於ける舟路上敵浮流機雷の反覆清掃、敵機雷戰策源地の搜索潰滅等多種多様の任務に従事して具に辛酸を嘗め眞に血と汗を以

て長江の兵站線を確保せるのみならず、更に陸軍部隊に直接協力して水路の強行偵察啓開及び嚮導、敵前揚陸等に任じ、又陸上戦闘を掩護支援して甚大なる寄與をなせり。

珠江部隊 亦水路錯綜せる同流域に於て、揚子江に於けると同様に水路の清掃保全、殘敵匪賊の掃蕩、陸軍部隊との協同作戰等絶間なき戰鬥に従事して多大の戦果を収めたり。此の間、

海軍航空部隊は全支上空の制空権を確保して縦横無盡の活躍を續け、陸上部隊、海（江）上部隊の作戰に全幅の協力を爲せる一方、長驅敵首都重慶、成都の要衝を始めとし、敵の奥地據點、新舊航空基地に對し悪天候其の他の障害を排除し、連續爆撃を敢行して敵空軍の再建を不能に陥らしむると同時に、敵の軍事關係諸施設並に軍用交通諸機關を爆撃破壊し、敵の心膽を寒からしめたり。

海南島部隊は三月上旬より陸戰隊を増強し、陸軍部隊の協力を得て同島の徹底的掃蕩を開始し四周より島内に向けて一齊に進撃、炎熱をもとせず隨所に敵軍を撃破しつゝ忽ち平原地帯を席卷し、更に山間避地に突入して敵の主要部落を討伐し、之を我掌中に收めたり。此の間我艦艇を以てする敵退路の遮斷と、航空部隊の潜伏敵兵に對する果敢なる殲滅戰と相俟つて、今や同島の掃蕩を一應完了して治安を回復し、島民は皇軍の武威の下に安居樂業を見るに至れり。本期間江上艦艇の處分せる機雷並に海軍航空部隊の撃破せる敵飛行機數左の如し。

(一) 處分機雷數

揚子江 二一〇

珠江 八九

計 二九九

事變以來の累計

五、〇五八

(二) 撃破せる敵飛行機數

確實

不確實

計

地上 爆破

五二

六四

撃墜

五六

六九

計

一〇八

一三三

事變以來累計

一、五一六

二六〇

一、七六六

尙夜間攻撃その他撃破を確認し得ざる機雷は相當多數に上るものと認む。

五、海の荒鷲の活躍

我が海軍航空部隊は、重慶政府航空基地の潰滅を期して四月二十二日本年度最初の奥地大空襲を行ひ、以來數回に亘つて重慶成都周邊及び四川省内の各基地、更に機翼をのばして昆明、貴陽等雲南省方面の基地を空襲し、天候の回復を待つて蠢動しようとする敵空軍を完膚なきまでに叩き、再起不能の状態に立至らしめた。尙海軍航空部隊は、敵空軍基地の潰滅のみで満足せず、更に支那各地の軍事施設、補給運輸機關及び敵部隊に對しても直接勇猛極まる空襲攻撃を敢行し、

今や四川を始め支那奥地の空は全く我が空軍の制壓下に入った。この海軍航空部隊の華々しい活躍を見るに

**重慶空襲** 島田編隊長指揮の大編隊は、四月二十二日夜半月明を利用して本年度最初の奥地空襲を敢行、重慶西方百十キロの地點にある宜賓飛行場を爆撃、ついで池田、奥山、中村の各隊の後編部隊によつて同飛行場を徹底的に爆撃、全機歸還した。

**四川爆撃行** 島田編隊長總指揮の我が航空部隊は、四月三十日曉廣陽壩飛行場を襲つて二ヶ所に火災を起し、池田隊は防空砲火をくぐつて白市驛飛行場を空襲、待機中の敵機を炎上せしめ多大の戦果を収めた。

**貴陽空襲** 高橋精銳部隊は五月一日鋭鋒を貴陽に向け、敵のトラック百五十輛に全弾を集中、敵軍の軍需品輸送路を完全に遮断するに成切し、全機無事歸還した。

**昆明空襲** 山本部隊は五月九日、再建を急ぐ敵空軍の搖籃地昆明飛行場に猛爆を加へ、一舉に潰滅させたのである。

**滇黔公路爆撃** 昆明空襲に引續き同部隊は、五月十四日昆明と貴陽を結ぶ滇黔公路を爆撃、佛印、ビルマ方面より貴陽重慶方面に通ずる軍需資材の援蔣ルートを破壊最初の鐵槌を下した。

**四川を猛連爆** 一時鋭鋒を収めたかに見えた海軍航空部隊の四川爆撃は、五月十八日夜半より

連日に互り再び決行、小谷編隊長指揮の大編隊は十八日夜行動を起し成都空襲に向ひ、其第一陣中村隊は同日午後十時四十分溫江飛行場を襲ひ、場内の敵機四機を炎上せしめ、轉じて太平寺飛行場の滑走路を爆撃した後、折から上昇して來た敵イー十五型、同十六型六機と三十分互る空戦の後之を撃退す。第二陣池田隊は敵戦闘機の反撃を一蹴して、引續き太平寺飛行場に巨彈を集中、附屬建物一ヶ所を炎上續く第三陣奥山隊は、次第に天候險惡化し雨の降る中を重慶西北方の遂寧飛行場の急襲を強行し、場内及び附屬建物を爆撃し全編隊は悠々基地に歸還した。

十九日夜には嚴谷、金子兩編隊群は、重慶西方八十マイル揚子江沿ひの要衝宜賓飛行場を急襲午後九時五十分、十時五十分の二回互り巨彈を集中し、地上の敵機二機を炎上せしめた上ガソリン貯藏庫にも火災を起させた。

更に成都に向つた足立、瀬戸兩編隊群は、十時二十五分鳳凰山飛行場に、翌二十日は午前零時十五分に太平寺飛行場を襲ひ敵機と交戦之を撃退しつゝ歸還した。之と別に小谷編隊長の指揮する編隊群は、十九日午後十一時五十分から一時間に互り重慶東北方梁山飛行場を爆撃、敵機五機を破壊して全機歸還した。

二十日午前八時三十五分粟野原編隊長指揮の大編隊は、再度梁山飛行場の晝間攻撃を敢行、待機する敵機七機と三十分間に互り激烈な空中戦の後一機を撃墜し、同飛行場並に飛行機掩護物々

使用に堪へぬまでに粉碎して歸還した。更に同夜十時三十五分には、重慶郊外廣陽壩飛行場に急襲挑戦する敵戦闘機二機と交戦しつゝ、同飛行場を完膚なく爆砕した。次いで廿一日にも三原編隊長總指揮の下に三度梁山飛行場に向つたが、敵影を見ず之を爆撃後歸還した。

二十二日には三原、小原二大精銳群は正午再び重慶大空襲に向ひ、重慶白市驛飛行場を強襲敵に退避防禦の隙も與へず、滑走路を中心に敵戦闘機十二機を確實に爆破、且つ逃走せんとする敵戦闘機三機を捕捉撃墜して近來の好戦果を収めた。第五次重慶猛撃には極端編隊長總指揮の小谷三原、佐多の各編隊群は大舉重慶を空襲し、白市驛飛行場小龍坎の軍事施設を襲つて、敵機十五機と空中戦を演じ、遂に撃退し各所に甚大なる被害を與へた。

新支那讀本 (終)

京に創設

十月九日 汪精衛新生支那建設聲明 (第十次聲明)

十月十九日 汪精衛中華日報に日支經濟合作論を載せ支那の財界人に呼びかゝる (第十一次聲明)

十月卅一日 汪精衛南京に於て西尾總司令官、板垣總參謀長と會見

十一月五日 湖北省政府誕生

十一月十二日 汪精衛孫文誕辰記念日に際し聲明 (第十二次聲明)

十一月廿日 廣東治安維持會廢止

され、廣東市公署成立

十二月二日 汪精衛日本軍關係者に講演した「三民主義の理論と實際」を發表

▽王克敏新民會會長に就任

十二月九日 中央陸軍軍官學校上

那側に返還する旨聲明

三月廿日 中央政治會議南京に開催、支那新中央政府の名稱、首都、國旗、成立時期等發表さる

三月廿一日 中央政治會議第二日 國民政府政綱案、中央政治委員會組織條例案、國民政府組織系統表案等を議決

三月廿二日 中央政治會議第三日 華北政務委員會組織條例、重慶政府對策及び中央政府の人事等を議決

三月卅日 中華民國國民政府成立 遷都宣言及び政綱發表

四月廿五日 國民政府遷都慶祝式典

五月十二日 國民政府對日答禮使節陳公博專使一行來朝

六月十四日 對支國交調整基本條項開議にて決定



新東亞建設日誌

昭和十二年

七月七日 蘆溝橋事件勃發
七月卅日 北平治安維持會成立
八月十五日 帝國政府、南京政府
騰盛の重大聲明發表
九月二日 今回の事變を支那事變
と呼稱することに閣議決定
九月四日 察南自治政府樹立
十月十五日 晋北自治政府大同に
成立
十月廿七日 蒙古聯盟自治政權樹
立宣言
十一月廿日 國民政府重慶遷都公
表
十一月廿二日 蒙疆聯合委員會張
家口に成立
十二月十四日 中華民國臨時政府
成立
十二月廿四日 新民會結成

昭和十三年

一月一日 濟南、南京、杭州に治
安維持會成立
一月十一日 大本營御前會議開か
れ對支最高方針決定
一月十六日 帝國政府「爾後國民
政府を對手とせず」と中外に聲
明
一月十七日 大上海放送局放送開
始
一月十八日 北京に總領事館開設
一月廿日 冀東防共自治政府、臨
時政府に合流、兩政府代表調印
三月廿八日 中華民國維新政府南
京に誕生、梁鴻志行政院長に就
任
四月四日 北京南京兩政權善隣北
京會談
五月廿一日 徐州治安維持會成立
五月廿七日 厦門總領事館開館
六月一日 臨時、維新兩政府排外
關稅改訂實施
六月十八日 臨時、維新兩政府
「打倒蔣政權」聲明發表
七月一日 蒙古大會厚和に開催、
德王主席に決定
七月廿七日 國府漢口外交部閉鎖
重慶移轉
八月廿九日 東西文化協議會北京
に創立大會開く
九月十日 南京放送局開く
九月廿二日 中華民國政府聯合委
員會創立式典
十一月三日 帝國政府、汪精衛を
和平運動に乗り出させた根據と
もいはれる對支國交調整方針を

七月七日 蘆溝橋事件勃發
七月卅日 北平治安維持會成立
八月十五日 帝國政府、南京政府
騰盛の重大聲明發表
九月二日 今回の事變を支那事變
と呼稱することに閣議決定
九月四日 察南自治政府樹立
十月十五日 晋北自治政府大同に
成立
十月廿七日 蒙古聯盟自治政權樹
立宣言
十一月廿日 國民政府重慶遷都公
表
十一月廿二日 蒙疆聯合委員會張
家口に成立
十二月十四日 中華民國臨時政府
成立
十二月廿四日 新民會結成

▽臨時維新兩政府第二次聯合委
員會南京に開催、反共救國宣言
文發表
十一月廿五日 武漢治安維持會、
漢口に成立
十一月廿八日 支那新中央政府樹
立促進全體代表大會南京に開く
十一月卅日 武漢攻略後の日支關
係調整方針御前會議で決定
十二月一日 維新政府梁行政院長
「國民に告ぐ書」發表
十二月二日 日華經濟聯盟結成
十二月十八日 汪精衛重慶脱出
十二月二十日 中國聯銀小額紙幣
發行
十二月廿二日 近衛首相更生新支
那との國交調整に關する根本方
針に關する談話發表
十二月卅日 汪精衛ハノイに於て
反共和平に關する聲明と、前日
重慶政府に送付した對日和平
に關する建言を發表(第一次聲
明)

一月一日 國民黨汪精衛を除名、
對外聲明を發す
一月八日 汪精衛、昭和十三年十
二月廿九日重慶の中央勞務委員
會及び國防最高會議宛提出した
書簡内容を香港より發表(第二
次聲明)
一月廿六日 吳佩孚將軍全國に驅
起通電を發す
一月卅日 吳佩孚を推戴し和平救
國會宣言發表
三月一日 太原領事館開館
三月十一日 臨時政府金融擾亂暫
行處罰法公布、舊通貨禁止取締
實施辦法施行
三月卅日 臨時、維新兩政府第四
次聯合委員會で和平救國促進の
具體案決定
三月卅一日 汪精衛同志會仲鳴の
死を悼む聲明香港より發表(第
三次聲明)
四月二日 津浦線全通
四月八日 汪精衛、日本と汪間に
秘密協定が結ばれたとの報道に
關する反駁聲明發表(第四次聲
明)
四月廿日 武漢特別市政府誕生
四月廿一日 和平救國聯合會漢口
に成立
四月廿九日 蒙疆聯合委員會總務
委員長に德玉就任
五月一日 華興商業銀行設立
六月十二日 汪精衛「抗戰の眞

昭和十四年

一月一日 國民黨汪精衛を除名、
對外聲明を發す
一月八日 汪精衛、昭和十三年十
二月廿九日重慶の中央勞務委員
會及び國防最高會議宛提出した
書簡内容を香港より發表(第二
次聲明)
一月廿六日 吳佩孚將軍全國に驅
起通電を發す
一月卅日 吳佩孚を推戴し和平救
國會宣言發表
三月一日 太原領事館開館
三月十一日 臨時政府金融擾亂暫
行處罰法公布、舊通貨禁止取締
實施辦法施行
三月卅日 臨時、維新兩政府第四
次聯合委員會で和平救國促進の
具體案決定
三月卅一日 汪精衛同志會仲鳴の
死を悼む聲明香港より發表(第
三次聲明)
四月二日 津浦線全通
四月八日 汪精衛、日本と汪間に
秘密協定が結ばれたとの報道に
關する反駁聲明發表(第四次聲
明)
四月廿日 武漢特別市政府誕生
四月廿一日 和平救國聯合會漢口
に成立
四月廿九日 蒙疆聯合委員會總務
委員長に德玉就任
五月一日 華興商業銀行設立
六月十二日 汪精衛「抗戰の眞

相」と題し所信聲明(第五次聲
明)
六月廿二日 汕頭に治安維持會生
る
七月一日 日華有線電話開通
七月十日 汪精衛「吾人の日支關
係に對する根本觀念と前進目
標」と題する對蔣總統文發表
(第六次聲明)
七月十日 中華日報復活
紙上に汪精衛海外の支那同胞に
對し聲明發表
八月九日 汪精衛廣東より「如何
にして和平を實現するか」を放
送(第七次聲明)
八月十九日 海南島瓊山縣政府成
立
八月廿五日 漢口の佛租界解放
八月廿九日 蒙古大會統一政權結
成決定
八月卅一日 中國國民黨第六次全
國代表大會上海に開催、汪精衛
を中央執行委員會主席に推す
九月一日 蒙古聯合自治政府成立
德王首席に就任
九月一日 汪精衛去る
六月近衛文麿公、平沼前内閣總
理大臣等と東京で會談せる旨國
民黨第六次全國代表大會閉會後
發表
九月五日 「汪精衛歐洲大戰と中
國の前途」と題し論文發表(第
八次聲明)
九月十七日 汪精衛重慶同志に勸
説通電を發す
九月廿一日 汪精衛、王克敏及び
梁鴻志と協力、和平の實現と憲
政の實施に邁進する旨日支記者
團に聲明
九月廿一日 汪精衛、臨時、維新
兩政府に對し協力を求める聲明
發表(第九次聲明)
九月廿二日 第六次中華民國政府
聯合委員會、汪精衛に全幅的協
力する旨決議
十月一日 支那派遣軍總司令部南
京に創設
十月九日 汪精衛新生支那建設聲
明(第十次聲明)
十月十九日 汪精衛中華日報に日
支經濟合作論を載せ支那の財界
人に呼びかゝ(第十一次聲明)
十月卅一日 汪精衛南京に於て西
屬總司令官、板垣總參謀長と會
見
十一月五日 湖北省政府誕生
十一月十二日 汪精衛孫文誕辰記
念日に際し聲明(第十二次聲
明)
十一月廿日 廣東治安維持會廢止
され、廣東市公署成立
十二月二日 汪精衛日本軍關係者
に講演した「三民主義の理論と
實際」を發表
十二月九日 中央陸軍軍官學校上

海に開く
十二月十日 武漢民衆中央政
進大會開く
十二月廿九日 汪精衛和平聲
周年に際して聲明

昭和十五年

一月一日 汪精衛「進め共同
へ」と題し年頭所感發表(
三次聲明)
一月五日 陸軍省部、支那新
政府樹立問題に關し意見一
一月六日 興亞院會議、支那
中央政府樹立の運動支援に決
一月八日 支那新中央政府支
基本對策案議決
一月十一日 興亞院連絡部長
議南京に開催、支那新中央
支援に決定
一月十六日 汪精衛、近衛原
原則に基づき具體的實現を
よと誓宛通電
一月二十日 汪精衛伊國チア
相へ感謝電報を寄せる
一月廿二日 汪精衛林柏生を
和平救國運動の經過を發表
一月廿三日 青島會談、汪精
王克敏、梁鴻志等の下に
迎賓館に開く(三日間)
一月廿四日 汪精衛青島會談
支記者團に三民主義の眞意
一月廿六日 汪精衛青島會談
り聲明發表(第十四次聲明)
一月廿九日 王克敏、梁鴻志共同聲明
三月十二日 汪精衛和平運動
策を聲明
三月十三日 汪精衛の聲明に
新政府を承認する旨ある
内總理大臣談話
三月十六日 支那新中央政府
特派大使阿部信行大將に内
三月十八日 西尾總司令官、
理の嶺山、工場、事業場等
那側に返還する旨聲明
三月廿日 中央政治會議南京
催、支那新中央政府の名稱
都、國旗、成立時期等發表
三月廿一日 中央政治會議第
國民政府政綱案、中央政治
會組織條例案、國民政府組
統表案等を議決
三月廿二日 中央政治會議第
華北政務委員會組織條例、
政府對策及び中央政府の人
を議決
三月卅日 中華民國國民政府
遷都宣言及び政綱發表
四月廿五日 國民政府遷都慶
典
五月十二日 國民政府對日答
節陳公博專使一行來朝
六月十四日 對支國交調整基
項閣議にて決定

新東亞建設日誌

昭和十二年

七月七日 蘆溝橋事件勃發
七月十日 北平治安維持會成立
七月十五日 帝國政府、南京政府
蔣總の重大聲明發表
七月二十日 今回事變を支那事變
と呼稱することに閣議決定
七月二十四日 察南自治政府樹立
七月二十五日 晉北自治政府大同に
成立
七月廿七日 蒙古聯盟自治政權樹
立宣言、▽歸綏を厚和と改稱
八月一日 國民政府重慶遷都公
表
八月廿二日 蒙疆聯合委員會張
家口に成立
八月十四日 中華民國臨時政府
成立、▽北平を北京と改稱
八月廿四日 新民會結成

昭和十三年

一月一日 濟南、南京、杭州に治
安維持會成立
一月十一日 大本營御前會議開か
れ對支最高方針決定
一月十六日 帝國政府「爾後國民
政府を對手とせず」と中外に聲
明
一月十七日 大上海放送局放送開
始、▽青島治安維持會發會式
一月十八日 北京に總領事館開設
▽國民政府、臨時政府否定聲明
一月卅日 冀東防共自治政府、臨
時政府に合流、兩政府代表調印
一月廿八日 中華民國維新政府南
京に誕生、梁鴻志行政院長に就
任
一月四日 北京南京兩政權善隣北
京會談
一月廿一日 徐州治安維持會成立
一月廿七日 厦門總領事館開館
一月一日 臨時、維新兩政府排外
關稅改訂實施
一月十八日 臨時、維新兩政府
「打倒蔣政權」聲明發表
一月一日、蒙古大會厚和に開催、
總王主席に決定
一月廿七日 國府漢口外交部閉鎖
重慶移轉
一月廿九日 東西文化協議會北京
に創立大會開く
一月十日 南京放送局開く
一月廿二日 中華民國政府聯合委
員會創立式典
一月三日 帝國政府、汪精衛を
和平運動に乗り出させた根據と
もいはれる對支國交調整方針を

聲明
▽臨時維新兩政府第二次聯合委
員會南京に開催、反共救國宣言
文發表
十一月廿五日 武漢治安維持會、
漢口に成立
十一月廿八日 支那新中央政府樹
立促進全體代表大會南京に開く
十一月卅日 武漢攻略後の日支關
係調整方針御前會議で決定
十二月一日 維新政府梁行政院長
「國民に告ぐ書」發表、▽天津
日華經濟聯盟結成
十二月十八日 汪精衛重慶脱出
十二月二十日 中國聯銀小額紙幣
發行、▽廣東治安維持會成立
十二月廿二日 近衛首相更新新支
那との國交調整に關する根本方
針に關する談話發表
十二月卅日 汪精衛ハノイに於て
反共和平に關する聲明と、前日
重慶政府に送付した對日和平
に關する建言を發表(第一次聲
明)

昭和十四年

一月一日 國民黨汪精衛を除名、
對外聲明を發す
一月八日 汪精衛、昭和十三年十
二月廿九日重慶の中央勞務委員
會及び國防最高會議宛提出した
書簡内容を香港より發表(第二
次聲明)
一月廿六日 吳佩孚將軍全國に驅
起通電を發す
一月卅日 吳佩孚を推戴し和平救
國會宣言發表
三月一日 太原領事館開館
三月十一日 臨時政府金融擾亂暫
行處罰法公布、舊通貨禁止取締
實施辦法施行
三月卅日 臨時、維新兩政府第四
次聯合委員會で和平救國促進の
具體案決定
三月卅一日 汪精衛同志會仲鳴の
死を悼む聲明香港より發表(第
三次聲明)
四月二日 津浦線全通
四月八日 汪精衛、日本と汪間に
秘密協定が結ばれたとの報道に
關する反駁聲明發表(第四次聲
明)
四月廿日 武漢特別市政府誕生
四月廿一日 和平救國聯合會漢口
に成立
四月廿九日 蒙疆聯合委員會總務
委員長に德玉就任
五月一日 華興商業銀行設立
六月十二日 汪精衛「抗戰の眞

相」と題し所信聲明(第五次聲
明)
六月廿二日 汕頭に治安維持會生
る
七月一日 日華有線電話開通
七月十日 汪精衛「吾人の日支關
係に對する根本觀念と前進目
標」と題する對蔣總統文發表
(第六次聲明)、▽中華日報復活
紙上に汪精衛海外の支那同胞に
對し聲明發表
八月九日 汪精衛廣東より「如何
にして和平を實現するか」を放
送(第七次聲明)
八月十九日 海南島瓊山縣政府成
立
八月廿五日 漢口の佛租界解放
八月廿九日 蒙古大會統一政權結
成決定
八月卅一日 中國國民黨第六次全
國代表大會上海に開催、汪精衛
を中央執行委員會主席に推す
九月一日 蒙古聯合自治政府成立
德王首席に就任、▽汪精衛去る
六月近衛文麿公、平沼前内閣總
理大臣等と東京で會談せる旨國
民黨第六次全國代表大會閉會後
發表
九月五日 「汪精衛歐洲大戰と中
國の前途」と題し論文發表(第
八次聲明)
九月十七日 汪精衛重慶同志に勸
説通電を發す
九月廿一日 汪精衛、王克敏及び
梁鴻志と協力、和平の實現と憲
政の實施に邁進する旨日支記者
團に聲明
九月廿一日 汪精衛、臨時、維新
兩政府に對し協力を求める聲明
發表(第九次聲明)
九月廿二日 第六次中華民國政府
聯合委員會、汪精衛に全幅的協
力する旨決議
十月一日 支那派遣軍總司令部南
京に創設
十月九日 汪精衛新生支那建設聲
明(第十次聲明)
十月十九日 汪精衛中華日報に日
支經濟合作論を載せ支那の財界
人に呼びか(第十一次聲明)
十月卅一日 汪精衛南京に於て西
尾總司令官、板垣總參謀長と會
見

昭和十五年

十一月五日 湖北省政府誕生
十一月十二日 汪精衛孫文誕辰記
念日に際し聲明(第十二次聲
明)
十一月廿日 廣東治安維持會廢止
され、廣東市公署成立
十二月二日 汪精衛日本軍關係者
に講演した「三民主義の理論と
實際」を發表、▽王克敏新民會
會長に就任
十二月九日 中央陸軍軍官學校上
海に開く
十二月十日 武漢民衆中央政權促
進大會開く
十二月廿九日 汪精衛和平聲明一
周年に際して聲明

一月一日 汪精衛「進め共同目標
へ」と題し年頭所感發表(第十
三次聲明)
一月五日 陸軍省部、支那新中央
政府樹立問題に關し意見一致
一月六日 興亞院會議、支那新中
央政府樹立の運動支援に決す
一月八日 支那新中央政府支持の
基本對策閣議決定
一月十一日 興亞院連絡部長官會
議南京に開催、支那新中央政府
支援に決定
一月十六日 汪精衛、近衛聲明の
原則に基づき具體的實現を求め
よと蔣宛通電
一月二十日 汪精衛伊國チアノ外
相へ感謝電報を寄せる
一月廿二日 汪精衛林柏生を通じ
和平救國運動の經過を發表
一月廿三日 青島會談、汪精衛、
王克敏、梁鴻志曹同の下に青島
迎賓館に開く(三日間)
一月廿四日 汪精衛青島會談後日
支記者團に三民主義の眞意闡明
一月廿六日 汪精衛青島會談を終
り聲明發表(第十四次聲明)
一月廿七日 汪精衛共同聲明
一月十二日 汪精衛和平運動の方
策を聲明
三月十三日 汪精衛の聲明に呼應
新政府を承認する旨ある旨米
内總理大臣談話發表
三月十六日 支那新中央政府への
特派大使阿部信行大將に内定
三月十八日 西尾總司令官、軍管
理の嶺山、工場、事業場等を支
那側に返還する旨聲明
三月廿日 中央政治會議南京に開
催、支那新中央政府の名稱、首
都、國旗、成立時期等發表さる
三月廿一日 中央政治會議第二日
國民政府政綱案、中央政治委員
會組織條例案、國民政府組織系
統表案等を議決
三月廿二日 中央政治會議第三日
華北政務委員會組織條例、重慶
政府對策及び中央政府の人事等
を議決
三月卅日 中華民國國民政府成立
遷都宣言及び政綱發表
四月廿五日 國民政府遷都慶祝式
典
五月十二日 國民政府對日答禮使
節陳公博專使一行來朝
六月十四日 對支國交調整基本條
項閣議にて決定

一月一日 濟南、南京、杭州に治
安維持會成立
一月十一日 大本營御前會議開か
れ對支最高方針決定
一月十六日 帝國政府「爾後國民
政府を對手とせず」と中外に聲
明
一月十七日 大上海放送局放送開
始、▽青島治安維持會發會式
一月十八日 北京に總領事館開設
▽國民政府、臨時政府否定聲明
一月卅日 冀東防共自治政府、臨
時政府に合流、兩政府代表調印
一月廿八日 中華民國維新政府南
京に誕生、梁鴻志行政院長に就
任
一月四日 北京南京兩政權善隣北
京會談
一月廿一日 徐州治安維持會成立
一月廿七日 厦門總領事館開館
一月一日 臨時、維新兩政府排外
關稅改訂實施
一月十八日 臨時、維新兩政府
「打倒蔣政權」聲明發表
一月一日、蒙古大會厚和に開催、
總王主席に決定
一月廿七日 國府漢口外交部閉鎖
重慶移轉
一月廿九日 東西文化協議會北京
に創立大會開く
一月十日 南京放送局開く
一月廿二日 中華民國政府聯合委
員會創立式典
一月三日 帝國政府、汪精衛を
和平運動に乗り出させた根據と
もいはれる對支國交調整方針を

聲明
▽臨時維新兩政府第二次聯合委
員會南京に開催、反共救國宣言
文發表
十一月廿五日 武漢治安維持會、
漢口に成立
十一月廿八日 支那新中央政府樹
立促進全體代表大會南京に開く
十一月卅日 武漢攻略後の日支關
係調整方針御前會議で決定
十二月一日 維新政府梁行政院長
「國民に告ぐ書」發表、▽天津
日華經濟聯盟結成
十二月十八日 汪精衛重慶脱出
十二月二十日 中國聯銀小額紙幣
發行、▽廣東治安維持會成立
十二月廿二日 近衛首相更新新支
那との國交調整に關する根本方
針に關する談話發表
十二月卅日 汪精衛ハノイに於て
反共和平に關する聲明と、前日
重慶政府に送付した對日和平
に關する建言を發表(第一次聲
明)

一月一日 國民黨汪精衛を除名、
對外聲明を發す
一月八日 汪精衛、昭和十三年十
二月廿九日重慶の中央勞務委員
會及び國防最高會議宛提出した
書簡内容を香港より發表(第二
次聲明)
一月廿六日 吳佩孚將軍全國に驅
起通電を發す
一月卅日 吳佩孚を推戴し和平救
國會宣言發表
三月一日 太原領事館開館
三月十一日 臨時政府金融擾亂暫
行處罰法公布、舊通貨禁止取締
實施辦法施行
三月卅日 臨時、維新兩政府第四
次聯合委員會で和平救國促進の
具體案決定
三月卅一日 汪精衛同志會仲鳴の
死を悼む聲明香港より發表(第
三次聲明)
四月二日 津浦線全通
四月八日 汪精衛、日本と汪間に
秘密協定が結ばれたとの報道に
關する反駁聲明發表(第四次聲
明)
四月廿日 武漢特別市政府誕生
四月廿一日 和平救國聯合會漢口
に成立
四月廿九日 蒙疆聯合委員會總務
委員長に德玉就任
五月一日 華興商業銀行設立
六月十二日 汪精衛「抗戰の眞

相」と題し所信聲明(第五次聲
明)
六月廿二日 汕頭に治安維持會生
る
七月一日 日華有線電話開通
七月十日 汪精衛「吾人の日支關
係に對する根本觀念と前進目
標」と題する對蔣總統文發表
(第六次聲明)、▽中華日報復活
紙上に汪精衛海外の支那同胞に
對し聲明發表
八月九日 汪精衛廣東より「如何
にして和平を實現するか」を放
送(第七次聲明)
八月十九日 海南島瓊山縣政府成
立
八月廿五日 漢口の佛租界解放
八月廿九日 蒙古大會統一政權結
成決定
八月卅一日 中國國民黨第六次全
國代表大會上海に開催、汪精衛
を中央執行委員會主席に推す
九月一日 蒙古聯合自治政府成立
德王首席に就任、▽汪精衛去る
六月近衛文麿公、平沼前内閣總
理大臣等と東京で會談せる旨國
民黨第六次全國代表大會閉會後
發表
九月五日 「汪精衛歐洲大戰と中
國の前途」と題し論文發表(第
八次聲明)
九月十七日 汪精衛重慶同志に勸
説通電を發す
九月廿一日 汪精衛、王克敏及び
梁鴻志と協力、和平の實現と憲
政の實施に邁進する旨日支記者
團に聲明
九月廿一日 汪精衛、臨時、維新
兩政府に對し協力を求める聲明
發表(第九次聲明)
九月廿二日 第六次中華民國政府
聯合委員會、汪精衛に全幅的協
力する旨決議
十月一日 支那派遣軍總司令部南
京に創設
十月九日 汪精衛新生支那建設聲
明(第十次聲明)
十月十九日 汪精衛中華日報に日
支經濟合作論を載せ支那の財界
人に呼びか(第十一次聲明)
十月卅一日 汪精衛南京に於て西
尾總司令官、板垣總參謀長と會
見

副總長(代理)蕭叔章

政務次長蕭叔章

常務次長鄭大章

訓練部 部長(兼任)陳公博

政務次長李誦一

常務次長富双英

開封綏靖主任 劉郁芬

武漢綏靖主任 葉蓬

北綏靖軍總司令 齊燮元

副主任	金雄白
副主任	劉雲
副主任	張顯之
副主任	凌霄
副主任	梅哲之
副主任	何炳賢
副主任	陳伯濬
副主任	唐惠民

內政總署督辦	王克敏
財務總署督辦	汪時瓚
治定總署督辦	齊燮元
教育總署督辦	湯爾和
實業總署督辦	王蔭泰
建設總署督辦	殷同
政務廳長	朱深
秘書廳	齊從元
綏靖軍總司令(兼任)	齊從元



中央政治委員會(主席汪精衛)

一、當然委員(五院院長及華北政務委員會委員長)

汪精衛 王揖唐 溫宗堯 王克敏 梁鴻志

二、列席委員(五院副院長。發言權有七ノミ)

顧維鈞 顧維鈞 顧維鈞 顧維鈞 顧維鈞

三、指定委員

周佛西 陳郁 劉斐村 焦菊隱 葉楚傖 傅秉常 鮑文樞 李士德

四、延聘委員(各黨各派代表及各地方重要之人士十一名)

朱深 殷雪村 趙叔 趙叔 趙叔

中央政治委員會

國民政府

行政院 院長汪精衛 副院長褚民誼 秘書長陳春圃

立法院 院長陳公博 副院長(未定)

司法部 院長溫宗堯 副院長朱履巽

考試院 院長王揖唐 副院長江亢虎

監察院 院長梁鴻志 副院長顧忠琛

軍事委員會 委員長王揖唐

華北政務委員會 委員長王揖唐

中央政治委員會

秘書長 周佛西 副秘書長 陳春圃

同 羅君強

法制專門委員會 主任梅思平 副主任金雄白

內政專門委員會 主任陳群 副主任劉雲

外交專門委員會 主任徐良 副主任張顯之

軍事專門委員會 主任鮑文樞 副主任凌雲

財政專門委員會 主任陳之頌 副主任梅哲之

經濟專門委員會 主任陳君憲 副主任何炳賢

交通專門委員會 主任李祖虞 副主任陳伯藩

教育專門委員會 主任焦燮 副主任唐惠民

內政部 部長陳群 政務次長江履謙 常務次長李久瀆

外交部 部長(兼任)褚民誼 政務次長徐良

財政部 部長代理兼政務次長鮑文樞 政務次長凌雲 常務次長陳維遠

軍政部 部長(兼任)汪精衛 政務次長凌雲 常務次長許繼承

海軍部 部長趙正平 政務次長樊仲雲 常務次長顧維鈞

教育部 部長李聖五 政務次長汪瀚章 常務次長湯澄波

司法行政部 部長梅思平 政務次長汪曼雲 常務次長何庭流

農商部 部長趙誠松 政務次長趙叔樞 常務次長周化人

鐵道部 部長諸青來 政務次長朱樸 常務次長李祖虞

交通部 部長丁默邨 政務次長顧繼武 常務次長彭年

社會部 部長林柏生 政務次長胡蘭成 常務次長孔憲徽

宣傳部 部長(兼任)周佛西 政務次長李士群 常務次長鄧祖禹

警政部 部長(兼任)周佛西 政務次長李士群 常務次長鄧祖禹

振務委員會 委員長岑德廣

邊疆委員會 委員長羅君強

僑務委員會 委員長陳濟成

水利委員會 委員長楊壽楨

最高法院 院長張耀 政務次長黃香谷

行政院 院長林彪 政務次長沈爾喬 常務次長王修

公務員懲戒委員會

銓敘部 部長(兼任)江亢虎 政務次長黃香谷

考試委員會 委員長(未定) 政務次長沈爾喬 常務次長王修

審計部 部長夏奇峯 政務次長沈爾喬 常務次長王修

參謀本部 部長(代理)楊漢一 政務次長劉培緒

蘇浙皖三省綏靖軍總司令任援道 政務次長任援道

軍事參議院 院長(代理)任援道 政務次長蕭叔章 常務次長鄭大章

軍事訓練部 部長(代理)蕭叔章 政務次長蕭叔章 常務次長鄭大章

政治訓練部 部長(兼任)陳公博 政務次長李福一 常務次長富双英

開封綏靖主任劉郁芬

武漢綏靖主任葉蓬

華北綏靖軍總司令齊燮元

內政總署 署長王克敏

財政總署 署長汪時瓚

治定總署 署長齊燮元

教育總署 署長湯爾和

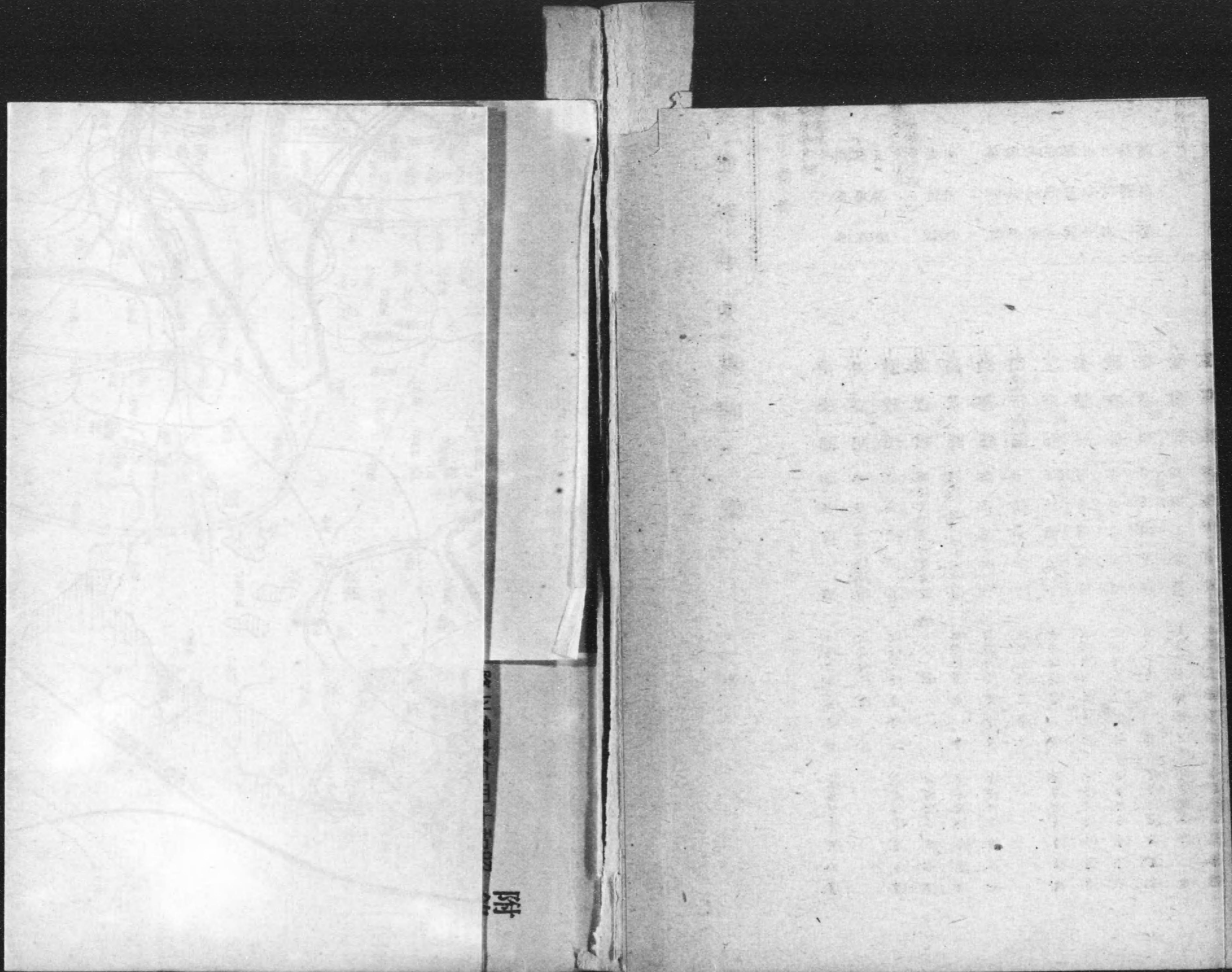
實業總署 署長王蔭泰

建設總署 署長殷雪村

政務總署 署長朱深

秘書總署 署長齊燮元

綏靖軍總司令(兼任)齊燮元

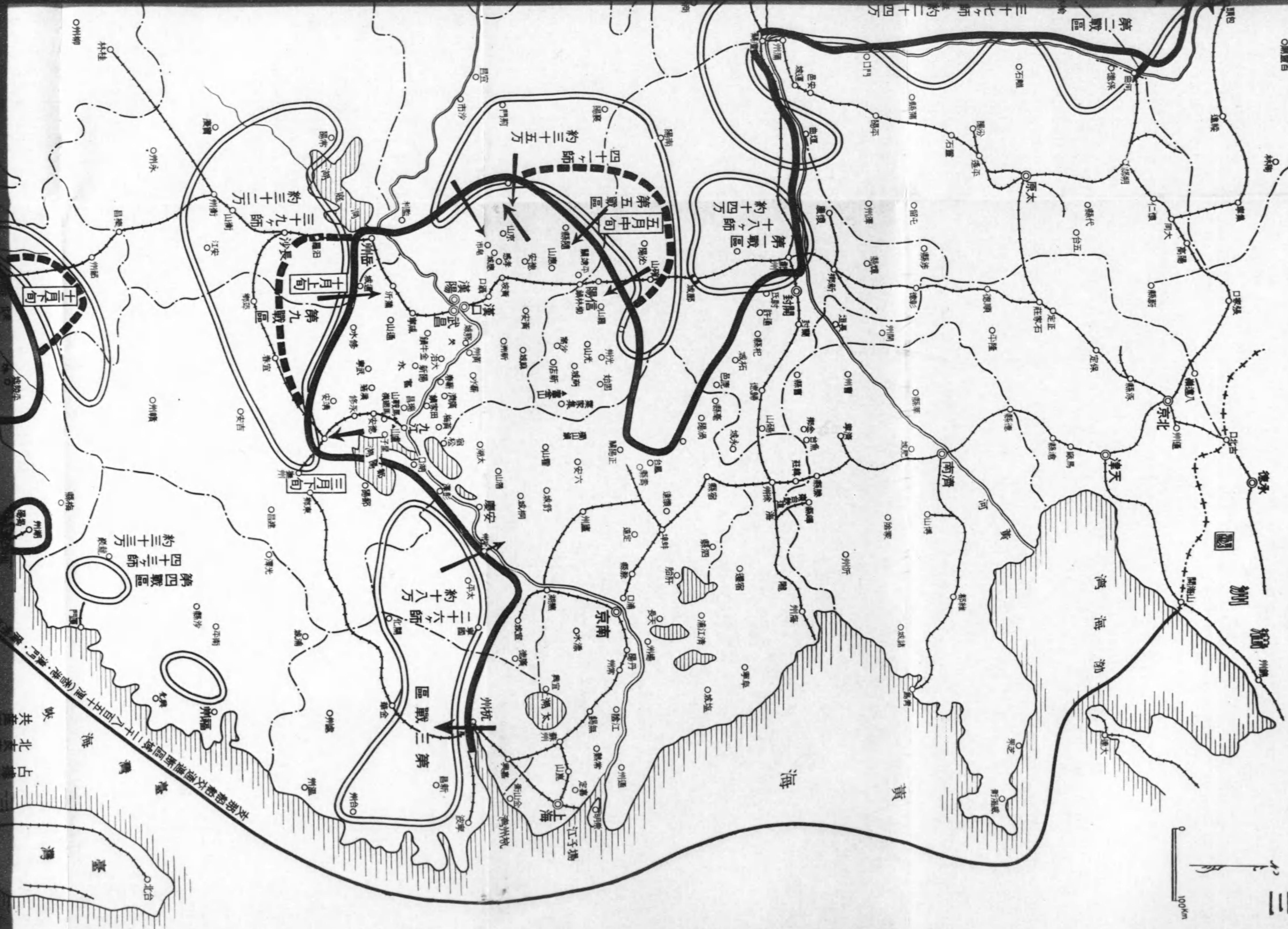


附

支那事變陸海軍主要作戰現況要圖

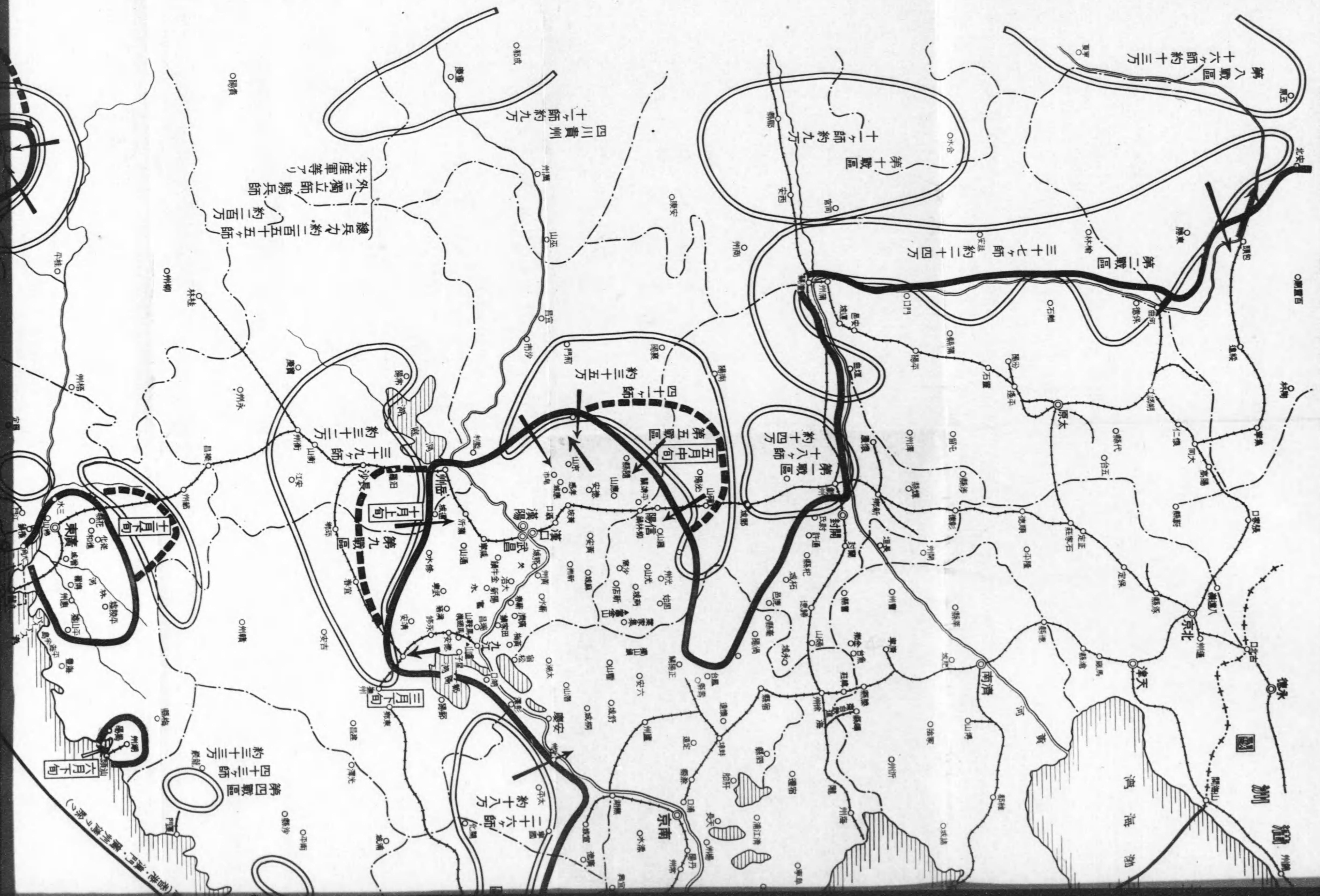
昭和十四年春季以降

附錄三

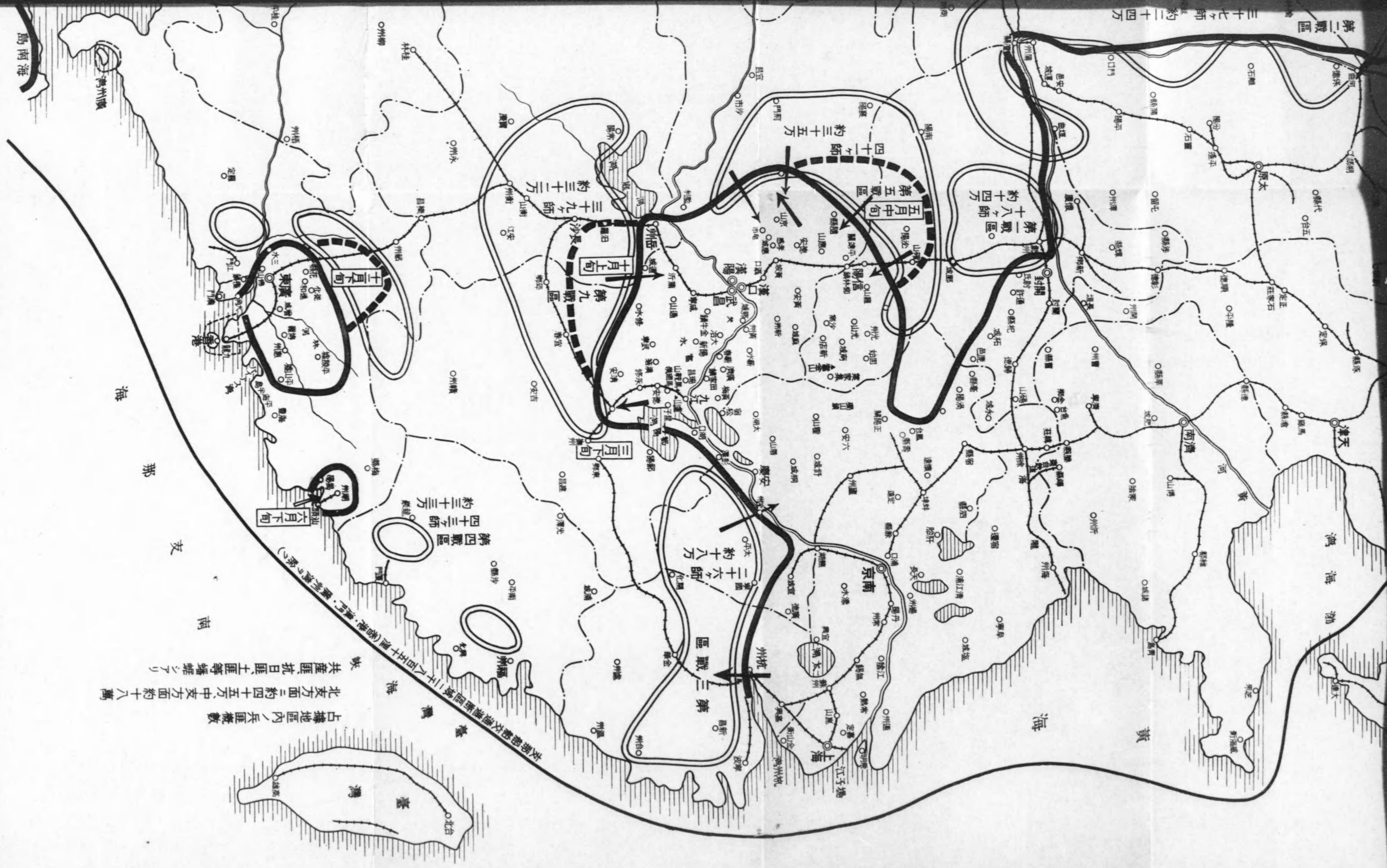


(濟可許製電部報情開内)

# 圖要況現ノ敵ニ並戰作要主軍海陸變事那支







占據地區內之兵匪概數  
 北支方面之約四十五萬中支方面約十八萬  
 共匪匪抗日匪土匪等蟻蚱之類

友 南  
 海 那

第二戰區  
 三十七萬師約二十四萬

第一戰區  
 約十四師

五月下旬  
 第四十一師  
 約三十五萬

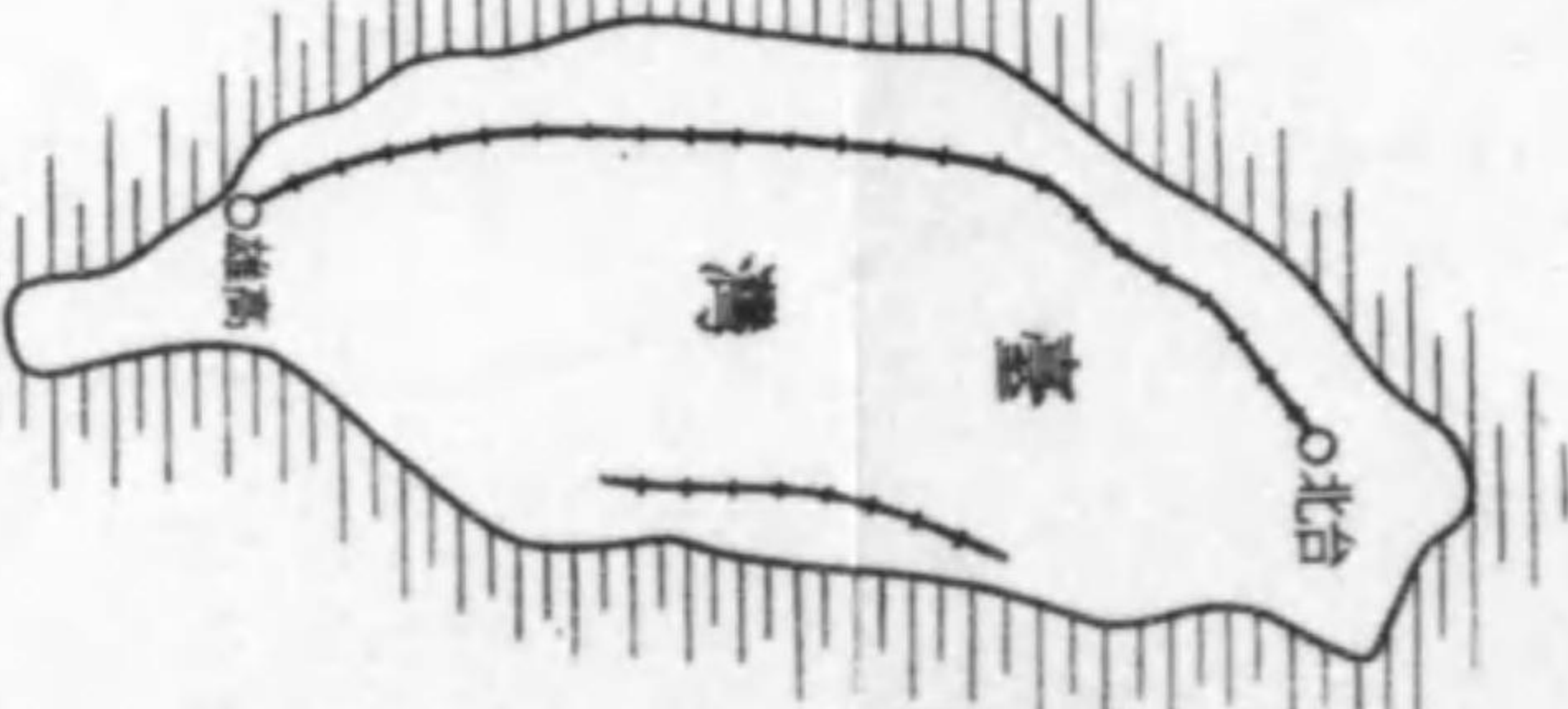
第九戰區  
 約三十三萬

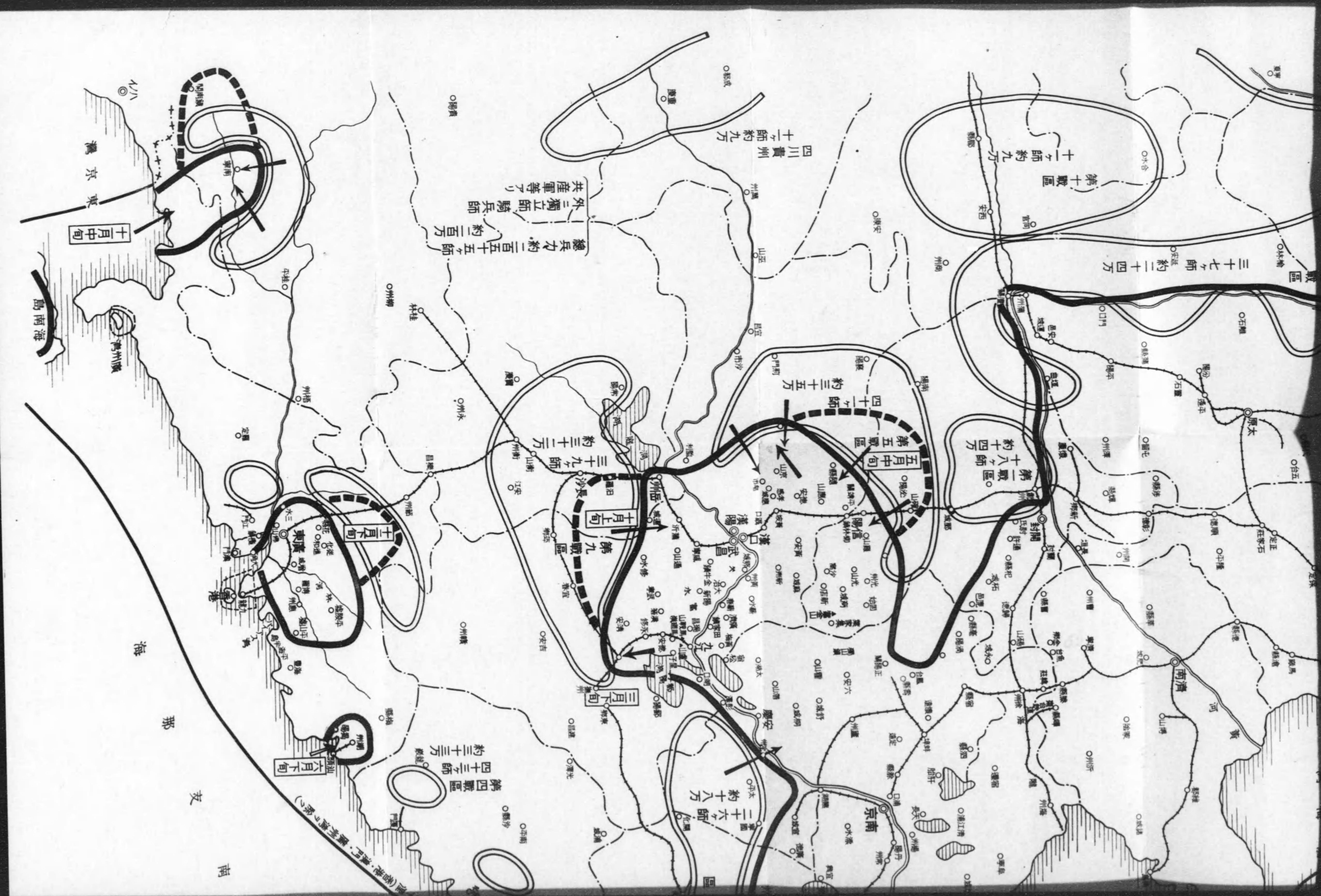
十月上旬  
 東廣

第四戰區  
 約三十三萬

二十六師  
 約十八萬

第三戰區





十月中旬

十月上旬

十月上旬

三月下旬

六月下旬

五月中旬

總兵力約二百五十五師  
外三獨立師騎兵師  
共産軍等

四川貴州  
十二師約九方

第十戰區  
十二師約九方

三十七師約二十四方

四十一師  
約三十五方

第一戰區  
約十八師

三十九師  
約三十三方

第四戰區  
約三十三師

二十六師  
約十八方

京東  
臺灣

島南海

海

鄂

友

南

(東北、華北、華東、華南、華西)

昭和十五年九月十三日印刷  
昭和十五年九月十七日發行

新支那讀本・全一冊  
定價一圓八十錢  
外地定價一圓九十八錢



著者 殿田 孝次

發行者 高 山 金 一  
東京市神田區小川町二丁目十番地

印刷者 大 橋 松 雄  
東京市小石川區久堅町百八番地

發行所

東京市神田區  
小川町二丁目十番地

高 山 書 院

電話 神田八一〇番  
振替東京八三八九三番

(社會式株刷印同共)

工商行政の大陸關係圖書

宇田米夫著

支那貿易の實際知識

四六判 四〇〇頁  
定價 三二〇 千・二四

新中央政權下の貿易と抗日重慶側の貿易—輸出商品—輸入商品—開港場—支那貿易と通貨問題—授將貿易—路香港と佛領印度支那—大陸政策と日滿支貿易—英・米・佛・獨・伊・蘇・白・蘭・葡・各國の對支貿易—列強殖民地の對支貿易—民族主義と對支貿易—阿片問題—南京條約以後に於ける支那貿易の發展—工業と貿易—關稅問題—海關管理と外債問題—上海租界の歴史—銀問題—中華民國海關輸出入稅率表

今村忠雄著

四六判 七〇〇頁  
定價 二八〇 千・一八

支那新通貨工作論

好評六判

星村大太郎著

菊判 四三〇頁  
定價 三五〇 千・一四

支那の製造工業

支那全工業を知る唯一の參考書

支那中國銀行版

四六判 二〇〇頁  
定價 一五〇 千・二〇

西南支那の社會と經濟

蔣政權最期の頼み、西南支那の鳥瞰圖

高山書院刊

カール・クロー著

四六判 三〇〇頁  
定價 一五〇 千・一〇

支那で成功する道

本書に依つて支那で成功する秘訣を知れ

後藤朝太郎著

四六判 三六〇頁  
定價 一五〇 千・二二

支那の土豪

支那を語る者は土豪の生活を知らねばならぬ

後藤朝太郎著

四六判 三六〇頁  
定價 一五〇 千・二二

支那の下層民

支那三億二千萬下層民は東亞の一大勢力だ

CL M40 - 3  
NO. 147

